

研究倫理委員会

委員長 新潟大学医学部第一生理 板東 武彦

委員の一部交代があり、板東が福田淳委員長のあとを引き継ぎました。前委員会は動物実験指針の確立（日本語版の完成、英語版の製作と完成）、生理学会における動物実験シンポジウムの開催、実験動物の安定供給についての活動を行ってきました。基本的にはこの活動を引き続いて行っています。

今期の方針

1. 実験動物の安定供給に関する問題についての活動

(1) 動物の愛護と管理に関する法律の施行に伴い、トラブルが発生しないように対処する。

実際に昨年10月に条例を制定した北海道で動物の譲渡が一方向的に停止されました。また、同法の見直しに伴い、動物権利運動家が過激な行動を行うことを監視する必要、不適切な改定要求がなされた場合の適正な対応があります。

(2) 本件に対する情報収集。

環境省の所掌する中央環境審議会動物愛護部会の活動内容等を含めて情報収集が必要です。

(3) WEB等を通じた啓蒙活動。

金子会長、岡田編集・広報幹事と協議しながら、WEBで動物実験の必要性、人類の福祉に対する寄与の大きさ等についてアピール。

(4) 鳥獣保護法に関する事態に対する対応。

鳥獣保護法の改正、マニュアルの制定に伴って、有害鳥獣として駆除された動物の使用に伴い、種々のトラブルが発生しています。引き続き、これに対処する必要があります。所掌する環境省に対して説明等を従来どおり、必要に応じて行うことも継続します。これらの問題に対しては、神経科学学会と歩調を合わせることにあります。

(5) ナショナルバイオリソース計画に対する協力

主としてサルについてですが、リソースを確保する活動が行われ、一部で、国による政策的なバックアップが計画されています。これらの活動に協力。

2. 動物実験に伴うトラブルに対する対策

(1) 動物実験指針を常時見直すとともに、その履行が適正に行われるように活動します。

(2) 行政文書の情報公開を利用した動物実験反対運動に適正に対処するために、法律面を含めた検討を行う予定です。国動協、神経科学学会と連携して行う予定です。

(3) 動物実験に対する非合法的な妨害が日本でも起こるようになりました。情報収集と警告を行う必要があります。また、WEBに相談コーナーを設けることを計画しています。

3. 動物実験シンポジウムを第80回大会で行います。現在、演題・演者を絞り込んでいるところです。

委員リスト〔敬称略〕

板東 武彦	新潟大学医学部第一生理
青木 藩	札幌医科大学生理学講座
伊佐 正	生理学研究所統合生理研究施設
丹治 順	東北大学医学部生体システム生理学
江連 和久	東京都神経科学総合研究所病態生理部門
小川 尚	熊本大学医学部生理学講座
畠 義郎	鳥取大学医学部生命科学科生体情報機能学講座
坂本 尚志	旭川医大生理学第二講座
宮下 保司	東京大学医学部統合生理学教室